

弟子を訓練するセッション3:弟子訓練とは何か?(2b)

ロン・ライブリー、M.Div., M.A. – BiblicalMentoring.org(研究)による提供

出典: キース・フィリップス博士著『The Making of a Disciple』。フレミング・H・レヴェル社、1981年刊行。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。以下の内容(勉強問題を除く)は、改訂なしに本書から直接引用したものです。各レッスンの順序は次の通りです:記憶の節を引用する;その聖書の章全体を読む;質問を読む;内容を読み、議論する;そして個人的な祈りの願いを共有し、それぞれの祈りを相手の願いの祈りで締めくくります。

ステップ1:祈りの開会

ステップ2:各人が記憶の節「[ガラテヤ人への手紙2章20節](#)」を引用します

(<https://biblicalmentoring.org/index.php/training-disciples-to-train-others/> 参照)

20 私はキリストと共に十字架にかけられた。もはや生きているのは私ではなく、キリストが私の中に生きている。そして今、肉体の中で生きている私は、私を愛し、私のために自らを捧げてくださった神の子への信仰によって生きている。

ステップ3:聖書の章-[ガラテヤ人への手紙2章](#)

を読み、議論する ステップ4:個人的な申請やグループディスカッションのための質問:

- 一、使徒パウロのことはキリストと共に十字架にかけられたと言えますが、私や他の人々が真の変容があったとどうやって言えるのでしょうか?
- 二、著者の飛行機事故の物語を語ることを学ぶ?自分自身に死ぬことで本当に生きることについて?
- 三、あなたはキリストの贖いと贖いへの信仰によって従うよう召命や命令を聞いたことがありますか?
- 四、あなたはキリストを主として従い、弟子を彼のように育てる行動を起こす決意をしましたか?あなたのような?
- 五、フィリップスの「生殖なしに弟子訓練はない」という言葉に賛成し、肯定しますか?もしそうなら、神がこの計画を祝福して下さるよう祈れる人にあなたの行動計画を共有してください。

ステップ5:本の内容を読み、議論する:著者キース・フィリップスによる第2章b:

神の救いの賜物は人間の最も重要な必要を満たしますが、この人道的で自分のために行うという説得は、キリストが十字架で死んだ究極の理由を完全に無視しています。神は主に、御子の人格を持つ人々を通じて自分自身に栄光をもたらすために救いを与えます(エペソ人への手紙1:12)。神の栄光は人間の福祉よりも重要です(イザヤ書43:7)。

救いの目的を理解する者は、キリストの主権を受け入れずに人が救われると推測する勇気はありません。もし私が私の命の主であるなら、キリストは私の人生の主にはなり得ません。キリストが支配するためには、私は死ねなければなりません。私は自分自身に死を重ね、私の罪のために死んだキリストと同一視しなければ弟子にはなりません(マルコ8:34)。弟子は主に従い、十字架に至るまで従います。

長い間、「自己死」の実際的な意味を理解しようと苦闘してきました。この決意ある自己放棄は、私の人生の中でどのように形を成すのだろうか?それはガラテヤ人への手紙2章20節を黙想しているときにようやく実感しました。「私はキリストと共に十字架にかけられた。そしてもはや生きているのは私ではなく、キリストは私の内に生きている...」

1月1日、カンザスの上空を飛行していたとしましょう。私の体は地面に落ち、衝突で死亡しました。やがて農夫が私の遺体を発見しました。脈も鼓動も呼吸もありません。体は冷たかったです。明らかに死んでいました。そこで農夫は墓を掘りました。しかし遺体を土に埋めた時には暗くて覆いませんでした。翌朝に終わらせると決め、家に戻りました。

するとキリストが私のもとに来て言いました。「キース、あなたは死んだ。あなたの地上での命は終わった。しかし、私の願いを何でもし、どこへでも行くと約束するなら、私は新しい命の息吹をあなたに吹き込む。」

私の即座の反応は、「そんなの無理だ!それは理不尽だ。奴隷制だ」でした。しかし、交渉の余地が良くないことに気づき、すぐに正気に戻りました。私は心から同意しました。

瞬時に肺や心臓、その他の重要な臓器が再び機能し始めました。私は生き返りました。私は生まれ変わったのです!それ以来、キリストが私に何を頼まれようと、どこへ行くように言われようと、私は喜んで従いました。どんな困難な仕事も、長すぎる時間も、危険な場所ありません。何も不合理ではありませんでした。なぜでしょう?なぜなら、私は自分の命に権利がなかったからです。私は借り物の時間、キリストの時間に生きていました。キースは1月1日にカンザスのトゥモロコシ畑で亡くなりました。その時、私はパウロと一緒にこう言えました。「私はキリストと共に十字架にかけられた。それでもはや生きているのはキースではなく、キリストが私の中に生きているのだ...」

それこそが自死と新生の本質です。キリストの「私に従いなさい」という命令は、新しい命を体験するために彼の死に参加するよう促すものです。あなたは生ける屍のような人間となり、完全に彼に献身します。

人生の大きな逆説は、この死の中に大きな自由があることです。死者はもはや自分の権利や独立、他人の意見などに気にしません。十字架にかけられたキリストと霊的な結合を結んだとき、世間が大切にしていた富、安全、地位は手放されました。「今やキリスト・イエスに属する者は、情熱と欲望をもって肉体を十字架にかけた」(ガラテヤ人への手紙5:24)。十字架を背負い、キリストと共に十字架にかけられた者は、明日を不安に思いません。なぜなら自分の未来は他者の手に委ねられているからです。

ある都市部の労働者は大胆なストリートミニストリーを設立することを夢見ていた。しかし、彼が望んだ奇跡が実現しなかったため、彼は幻想に頼り、出会いを歪め、架空の出来事を作り出し、他者の尊敬を促そうとした。彼は壮大なビジョンに囚われ、自分の期待に囚われた。

彼の潜在意識の動機は、王国のために英雄的な偉業を成し遂げることでキリスト教世界の畏敬と称賛を得ることでした。彼の情熱、夢、ビジョンは決して十字架にかけられることはありませんでした。彼は成功し、成果を上げるというプレッシャーから解放されることは決してありませんでした。彼は証明するものがなく、失うものもないという解放感を経験しませんでした。彼は弟子としての見方が歪んでいました。彼は栄光を得るために神に仕えたいと望んでいました。

対照的に、死んだ人は神の栄光のためにあらゆることをするよう解放されます(ローマ8:10)。彼は自分が持つすべてを神の永続的な処分に委ねます。キリストの主権への服従は、彼が下すすべての決断、発する言葉、考えるすべての思考において神を喜ばせる力を与えます。弟子は自分の人生と奉仕のすべてを礼拝と見なします(コリント第一10:31)。

自己死は彼に神との愛を楽しむ自由を与えます。自己死は弟子になるための必須の前提条件です。自己死を経験していない者は、子孫を残せないため、弟子訓練の正当なリンクとして認められません。イエスはこう教えました。「...小麦の一粒が地に落ちて死なない限り、それは自然に残る。しかし死んでも、多くの実を結ぶ」(ヨハネ12:24)。繁殖がなければ弟子制度は存在しない。(18b-20ページ)

ステップ6:最後に、個人的な祈りの願いと、互いに祈るための祈りを共有すること。

改訂20260826